

■【トピックス】  
総理のリーダーシップ！



明けましておめでとうございます。昨年は大変厳しい1年でした。今年こそは良い年でありますように願わざるを得ません。

しかし、国のトップの総理大臣のしたいことが分かりませんね。

この国の将来像を示せない人が、トップにいても、何とかやっていけた時代は終わりました。優柔不断なトップは、その姿勢を即刻改めるべきです。それと院政もですね。

■【ビジネス・アイ】  
税制改正（2010）

社長 「民主党政権になって中小企業の税金が安くなると思っていたけど、ダメみたいだね。」

花野 「そうですね。民主党のマニフェストには、中小企業の軽減税率の引き下げがうたわれていましたが、先送りされましたね。特殊支配同族会社役員給与課税は廃止されましたが」

社長 「民主党もあれだけマニフェストは国民との約束とって選挙していたのに騙された感じだね」

花野 「そういわれても仕方ないですよ」

社長 「業績が悪いから先送りされても、実際のところ影響はそんなにないんだけど、気分がよくないよね」

花野 「おっしゃるとおりです。先送りだけでなく相続税関係では、資産家に対する実質増税があります」

社長 「どんなことなの？」

花野 「具体的には、相続で一番多く適用される小規模宅地等の特例と呼ばれるものが改正されるのです」

社長 「影響は多きいの？」

花野 「オフィスビルの最上階に居住しているオーナーさんとか影響が大きいですね」

社長 「うちは関係ないけど、資産家の人は大変そうだね」

花野 「そうですね。相続税対策を根本的に見直す必要があります」

■【今月のキーワード】  
小規模宅地等の特例

この特例は、相続人による事業等の継続に配慮して設けられた措置です。最大で相続時の土地の評価が8割減額されます。居住用の土地など生活を守ることができる特例でした。

しかし、今回相続後に事業等を継続しない場合などでも一定の減額を受けることが可能であることなど、その制度趣旨に照らして的確でない点が見直されました。

その結果、オフィスビルやアパート、マンション経営オーナーを直撃することになりました。

■【今月の1冊】  
『カネは後からついてくる！』

岡野 雅行 著  
青春出版社  
¥1280

痛くない注射器や携帯電話の電池ケースの開発で有名な岡野社長の経営論です。まさに破天荒ですが本質を突いています。

中小企業が大手企業に対抗して生き残っていくノウハウが満載です。必要な時には、ケンカをしなければなりません。その手ほどきもあります。この時代の経営者、必携の1冊です。



■【編集後記】

国内経済の状況が、一刻を争う状況であるにも関わらず、経済政策とは関係ない議論で政治は右往左往しています。

国民生活が第一と考えるのであれば、そのような政治を行って欲しいものですね。

『NEWS LETTER』vol. 34（毎月1日発行）

●定価：2,400円/年 ●発行日：2010.1.1 ●発行人：花野康成

●編集・発行：有限会社ビジネス・インスパイア

〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目1番30号錦マルエムビル5F

TEL052-205-6361 FAX052-204-8808

<http://homepage3.nifty.com/binspire/>